

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
9	創価大学	開発と貧困の経済学	高木 功 経済学部 教授	4	秋学期	火 金	30	10:45～12:15	創価大学	3

【到達目標】

1. 世界経済の構造を理解し、問題点を指摘できる。
2. 貧困・発展の意味について多角的に説明できる。
3. 私達の日常が、世界経済との相互依存関係の中で成立していることを例示でき、説明できる。
4. その上で、自己反省的な自身と行動主体としての自身を認識し、何らかの形で生活に反映できる。

【授業の概要】

本講義では主に二つのテーマについて考察します。一つは「開発途上経済」における経済発展と貧困の解消について、そして二つにはグローバル化によって拡大する世界経済のメカニズムについて理解することです。その上で不均衡な世界の公平化はいかにして可能かを考察します。

私たちの生きるこの世界は苛酷なものです。およそ人類 75 億の大半はいわゆる「開発(発展)途上地域」に生を受け、亡くなってゆきます。生の物的基礎を保障され、人間として自由と尊厳を確保できる人はむしろ少ないのです。「貧困」の解消は人類的課題であり、また「先進諸国」といわれる地域に住む人々の将来も開発途上諸国問題の解決いかににかかっています。「グローバリゼーション」の進展下における「富裕」と「貧困」の相互依存関係の構造を明らかにしたとき、「開発途上地域」の諸問題は、実は私たちの課題であることがわかるはずです。

後者については世界経済の現在の成長のメカニズムについて学びます。今世紀に入り、中国とインドという歴史的な大国とラテン・アメリカ諸国という非欧米地域諸国が再び世界の表舞台に踊り出て、世界経済・政治秩序の大きな影響力と役割を持ち始めています。希少な資源と豊富な資金を世界の公平化と繁栄に用いるような循環的メカニズムの形成と多角的な思想と文化的信念を包括し得る新たな世界政治経済秩序がもたらされています。2015 年に国連総会で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」は大きな共通の目標設定とすべての人びとと組織、国家のコミットメントを求めています。その可能性についても考察します。

【授業内容】

1. 講義の趣旨・概要と評価方法の説明開発・発展とは：SDGs の時代
2. 不均等な世界：富裕と貧困
3. 「開発の時代」の始まりと終わり？：「発展／開発(=Development)」とは
4. 開発の半世紀(1) 戦後復興期：ブレトン・ウッズ体制
5. 開発の半世紀(2) 50 年代、60 年代
6. 開発の半世紀(3) 70 年代の危機と債務問題
7. 開発の半世紀(4) 80 年代「失われた 10 年」、新自由主義の台頭。開発の半世紀(5) 90 年代：「開発」の終焉。
8. 「低開発」「貧困」の原因と背景
9. マルサスの罠、偽装失業
10. 貧困の罠からの脱出：農村・都市二部門/農・工二部門モデル
11. 〈LTD(話し合い学習)の実施①〉
12. ルイスの 2 部門モデル、ラニス=フェイ 2 部門モデル
13. リカードの罠
14. 「開発」の挫折：インフォーマル部門の拡大、過剰都市化
15. 中間試験
16. トダロ・モデル：3 部門モデル
17. 開発の改良主義的アプローチ：BHN(人間の基礎的ニーズ)アプローチと参加型アプローチ
18. 「貧困／発展」概念転換の試み：エンタイルメント、社会的排除、ケイパビリティ・アプローチ 「ファンクショニングス」とは
19. エンタイルメント・アプローチ①
20. 〈LTD(話し合い学習)の実施②〉
21. エンタイルメント・アプローチ②
22. チェンバースの貧困概念
23. センのケイパビリティ・アプローチ①
24. センのケイパビリティ・アプローチ②
25. UNDP による人間開発アプローチ：「人間開発指標(HDI)」「人間貧困指標(HPI)」
26. 人間貧困指数(HPI)
27. 〈LTD(話し合い学習)の実施③〉
28. インクルーシブ・ビジネス
29. グローバリゼーションと SDGs の意義
30. 総括

【成績評価方法】

- 定期試験 35%
レポート 35%
日常点 30%

【教科書】

特に指定しないが、配布資料に基き講義を行う。

【参考書、教材等】

1. 戸堂康之『開発経済学入門 第2版』 新世社 2021 年
2. 伊藤亜聖『デジタル化する新興国』中公新書 2020 年
3. E. デュフロ『貧困と闘う知』みすず書房 2017 年
4. 蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房 2017 年
5. アンソニー・アトキンソン『21 世紀の不平等』(Inequality: What can be done?) 東洋経済新報社 2015 年
6. 高柳他編著『SDGs を学ぶ：国際開発・協力入門』法律文化社 2018 年
7. ロバート・チェンバース『開発の思想と行動』明石書店 2007 年
8. C.K. プラハラード『ネクスト・マーケット<増補改訂版>』英治出版 2010 年
9. 田中他編著『SDGs と開発協力』学文社 2017 年
10. 大塚啓二郎『なぜ貧しい国はならないのか』日本経済新聞 2014 年
11. フリップ・コトラー、ナンシー・リー『ソーシャル・マーケティング：貧困に克つ 7 つの視点と 10 の戦略的取り組み』丸善 2010 年
12. アマルティア・セン著『自由と経済開発』日本経済新聞社、2000 年
13. アマルティア・セン著『貧困の克服』集英社新書 2002 年

14. アマルティア・セン著『貧困と飢饉』岩波書店 2000年
15. ムハマド・ユヌス『貧困のない世界を創る—ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義』早川書房 2008年
16. ジェフリー・サックス『貧困の終焉』早川書房 2006年
17. スチュアート・ハート『未来をつくる資本主義』英治出版 2008年
18. ジェレミー・シーブルク『世界の貧困』青土社 2006年
19. 絵所秀紀『開発の政治経済学』日本評論社 1997年
20. 国連開発計画(UNDP)『人間開発報告』各年版 国際協力出版
21. 世界銀行編『世界開発報告』各年版 シェアリング・フェアクラブ東京
22. アジット・S・バラ、フレデリック・ラペール共著『グローバル化と社会的排除』昭和堂 2005年
23. 絵所・山崎編著『アマルティア・センの世界—経済学と開発研究の架橋』晃洋書房 2004年
24. M. トダロ, S.C. スミス共著『トダロとスミスの開発経済学』(第8版)国際協力出版会、2004年
25. 原洋之介著『アジア型経済システム』中公新書 1555. 2000年
26. 峯陽一著『現代アフリカと開発経済学』日本評論社 1999年
27. 速水佑次郎著『開発経済学—諸国民の貧困と富』創文社 1995年
28. 村上泰亮著『反古典の政治経済学—進歩史観の黄昏(上)』中央公論社 1992年
29. 村上泰亮著『反古典の政治経済学—二十一世紀への序説(下)』中央公論社 1992年
30. 村上泰亮著『反古典の政治経済学要綱—来世紀のための覚書』中央公論社 1994年
31. 原洋之介『開発経済論』岩波 2002年
32. エスラワン=コトワル『なぜ貧困はなくなるのか』日本評論社 2000年

※ この授業は、9/13(火)が初回です。